社会福祉法人尾道さつき会　尾道福祉専門学校

学校関係者評価委員会次第

１．日時　　平成 30 年 11 月 12 日 （月） 15：30～17：00

出席者：

施設長	久保田　あけみ	社会福祉法人泰清会　　サンライズマリン瀬戸
課　長	久留飛　高成	尾道市福祉保健部　高齢者福祉課
教　諭	深川　記代美	広島県立御調高等学校
理事長	平石　朗	社会福祉法人尾道さつき会
校　長	工藤　博道	尾道福祉専門学校
教務主任	豊田　美絵	尾道福祉専門学校
	金子　清美	尾道福祉専門学校

２．場所　　尾道福祉専門学校セミナー室

３．議題

(1)　はじめに　校長から学校の現況等説明(資料及び平成 29 年度自己評価報告書から)

・学校評価委員会の説明

３年の更新の年である

・ホームページに学校評価をあげる　　高校訪問時などで、国からの認定があることがいえる

ｲﾝｽﾀやﾗｲﾝで公開し、授業の中身を身近に感じられるようにしていく。

・高等教育の負担軽減の具体策について

年度末から年度初めにかけての申請を行う予定

・外国人受け入れの整備　外国人の受け入れをすすめる方向である。

・卒業生の就職　１６名卒業　１４名就職

・学生数　２年１２名　　委託生６名から３名

１年２０名から退学者、休学者がある

・来年度入学生、在校生の状況　　１年から２年に上がるのが難しい場合がある

・国試の結果　国試対策で対応

１）　学生の確保について

校長）体験入学生が昨年度３６名、今年度は９月末でのべ 55 名で増加している。２回の参加で受験料が免除される制度の活用のためであろう。

２）　外国人の入学について

校長）再来年、日本語学校からの入学生があるかもしれないと思う。

出席者）高校の福祉コースの状況で

ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをする学生は減少し、人とつながろうとする意識や機会が減っている。介護福祉士より、看護のほうがイメージしやすいこともある。

保護者の意見に強く影響されることから、保護者の意識の変化の影響を考える。

経済的な理由で進学をあきらめることなく指導し、本校に入学する生徒もいる。下の兄弟がおり、学費とともに生活費も求められる状況もある。

初任者研修の履修を１０高校近くがしており、奨学金制度があることがアピールになる。

出席者）消費税が上がり、月額８万円アップが実現し給与の格差が小さくなれば、希望者の増加につながるとも期待できる。ある県では看護の採用は飽和状況である。尾道では、高齢者施設が減る状況にある。

リクルートでは性格テストで２割は向いている学生である結果がある。大手企業は、３年で３割離職

している。競争意識になじまない人の再就職場としての福祉現場となる器はありそう。

出席者）高校からの就職が多い中、教育を受けたというﾍﾞｰｽがあるかないけで、指導パターンが必要な状況である。本人の親も出てくる。

県内の PT の実習を受け入れるが、その学生がありがとうと言われたのがうれしいという状況である。

(2) 教育活動等の現状と課題

出席者）学年間の交流はどのようなものがあるのか。

校長・金子）七夕、ハロウィーン、クリスマスなどの行事、実習での合同授業があり、年齢幅があることで、補いあっている部分がある。

出席者）二極化の構図があり、進学せず働くことを子どもに求める。発達障害など問題を抱える家庭が気になる。

校長）高校には来年から、初任者と実務者研修に切り替えるとのことで、本校への入学者も検討内に入ると思われる。

授業料の部分免除だけでなく、生活の援助も必要となる学生も多い中、２年で成長していく子なのか、見きわめていきたい。